

# 患者コミュニケーション教材作成のための看護観察知のインタビュー手法

## An Interview Method for Making Patient-communication Education Materials

沼田 達浩<sup>\*1</sup>, 小川 泰右<sup>\*1</sup>, 池田 満<sup>\*1</sup>, 鈴木 齋王<sup>\*2</sup>, 荒木 賢二<sup>\*2</sup>  
Tatsuhiko NUMADA<sup>\*1</sup>, Taisuke OGAWA<sup>\*1</sup>, Mitsuru IKEDA<sup>\*1</sup>, Muneou SUZUKI<sup>\*2</sup>, Kenji ARAKI<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>北陸先端科学技術大学院大学

<sup>\*1</sup>Japan Advanced Institute of Science and Technology

<sup>\*2</sup>宮崎大学医学部附属病院

<sup>\*2</sup>Miyazaki University Hospital

Email : numada@jaist.ac.jp

**あらまし**：医療の質を高めるには患者の訴え（主観データ）に耳を傾けることが重要であり，熟練看護師はそのための能力を身につけている．本研究ではこの能力が看護実践でどのように現れるかについての教材の作成をめざす，方法としては電子カルテ上の主観データに注目し，それがどのような看護観察知により得られたかをインタビューする．そこでは医療行為の文脈を問題指向で示すことで，看護師による看護実践の振り返りを促す．

**キーワード**：看護実践，ナラティブ，プロブレム，現場教育

### 1. はじめに

医療サービスの質を高めるために，疾病や障害といった医学的な問題だけでなく，患者の生活や心理面でかかえる問題（プロブレムと呼ぶ）を，医療者は捉えることが理想である<sup>(1)</sup>とされている．

プロブレムを把握・解消するために看護師は患者の訴え（主観データ）を収集する必要がある．患者の訴えは患者が語るものだけでなく，患者の表情・しぐさなどから患者の不安・異常を観察し，それに基づき思考する<sup>(2)</sup>という非言語コミュニケーションを含む高度な能力である．本研究ではこの能力を看護観察知と呼ぶ．

看護観察知は経験知であり体系化が難しく，それを病院内で共有するには，ナラティブが有効であると言われている<sup>(3)</sup>．ナラティブは看護師の実践をストーリー形式で記述したものであり，そこから看護師の臨床で経験した出来事における観察や考え方を知ることができる．一方で，ナラティブから看護観察知を学ぶには，看護観察知の理解に不可欠であるがナラティブに表出されていない情報（以降は潜在情報と略記）を見いだすこと，その潜在情報が看護観察知を理解するうえで果たす役割を認識すること，が難しいという障壁がある．この障壁を軽減し，看護観察知を学びやすいナラティブベースの教材を作成することが本研究の目的である．

その第一歩として，本稿ではナラティブのどこに看護観察知の学びに重要な情報が潜在しているのか・看護観察知の価値はどのようなものをナラティブから明示する手法について検討する．具体的には，看護観察知を理解するうえで必要だがナラティブに含まれない情報を収集するためのインタビュー手法と，収集した情報が看護観察知の理解において果たす役割のモデリング手法が含まれる．

### 2. 看護観察知の教材としてのナラティブ

本稿では，多様な看護観察知のうち以下の2つを教育目的として，看護観察知の教材としてのナラティブが含む情報を検討する．

- 不断の注意力：患者のケアと一見関係なさそうなことについても普段からよく観察している．（注意力と略記）
- 即興的实践力：観察したことを，即興的に医療行為での工夫に活かせる．（即興力と略記）

ナラティブは，看護観察知の発揮の表出であるが，ナラティブから看護観察知を理解することには，ナラティブには潜在情報があることや，そこに含まれる情報が看護観察知で果たす役割が曖昧であることに難しさがある．このことを，以下のナラティブにそって説明する．

肺炎による呼吸不全を患っているSさんに対し，入眠よりナルコーシス（麻痺状態）が発生した．呼吸を維持するために眠らせないことがここでは大切である．そこで，とっさの判断でSさんと民謡を一緒に歌うことにした．結果Sさんは会話ができるまで回復した．

このナラティブを理解するには，以下の情報を合わせて知る必要がある．しかし，上述のナラティブでは，それを聞き手が推察するという前提に語られており，明示されていない．

1. 眠らせないためには，普通なら世間話する
2. 高齢男性は世間話を好まない傾向がある
3. Sさんは民謡なら歌ってくれそうと考えた．
4. 観察の根拠は，数日前にデイルームで民謡が流れていた時に，Sさんがそれに反応しているように思われた．

Sさんに民謡を歌わせたことを即興力の発揮として理解するには1と2を知る必要がある．さらに，3の考えとそれが4という観察に基づいたものであるこ

とを知る必要がある。また、4 が注意力の発揮であることを教える必要がある。

### 3. 看護観察知を顕在化するインタビュー手法

看護観察知を理解するうえで重要な潜在情報を熟練看護師からインタビューし、それに基づいて、看護実践をモデリングすることで、看護観察知の学習教材を構成する。

#### 3.1 潜在情報のインタビュー

潜在情報をインタビューで収集するためには、インタビュアーに必要な知識を整理することが第一歩となる。そこで看護観察知の潜在情報を、看護観察知の理解における役割という観点から整理する。表1に2章に示した情報が果たす役割を示す。

表1 看護観察知の潜在情報とその役割

潜在情報	役割	質問文
世間話をする	通常的手段からの逸脱の明確化 (即興力)	通常はどうするのですか？
年配の男性は世間話を好まない	工夫の必要性の明確化 (即興力)	通常の様子ではなぜだめなのですか？
デイルームでSさんが民謡に反応していた (主観データ)	工夫を想起させた観察の明確化 (注意力)	どうして民謡であれば可能だと考えたのですか？

このような、看護観察知の理解において情報が果たす役割の整理を現在進めている。これは教材化に向けてのインタビューの基礎というだけでなく、相対的に経験の浅い看護師がナラティブを理解する際のガイドとなる。

#### 3.2 医療行為とその目的のモデリングに基づく看護観察知の見える化

潜在情報をインタビューで収集し、それを学習者に示すだけでは、看護観察知を理解させるのは難しい。その一因として、ナラティブには多様な医療行為が含まれているが、それらが看護観察知を理解するうえで果たす役割には曖昧性があることに注目する。この役割を明示化させるために、本研究ではプロブレムモデリング<sup>(4)</sup>を活用する。プロブレムモデリングとは、あるプロブレムの解消 (目的) と、その手段の関係を時系列で表現したものである。医療行為にはプロブレム (目的)・行為・手段を示すという役割がある。2章で示したナラティブのモデルを図1に示す。

まず即興力として、「民謡を歌わせる」という行為がなぜ特殊なのかは、それが「患者を眠らせない」という行為の手段であり、それが通常行われている「世間話をする」という手段と比べて特殊であることが表現されている。つまり、普段なら世間話をするのに対し、Sさんが民謡に反応していることに気付いていたことを活かし民謡を歌わせたというのが熟練看護師の工夫である。

この工夫するに当たり即興力が発揮されているこ

とが以下のように表現される。まず、Sさんに (世間話が拒絶される可能性が高いのに対し) 民謡を歌わせることができると考えた根拠 (主観データ) がいつ収集されたものであるのかは、以前にデイルームで流れていた民謡のメロディにSさんが反応しているように思われたというものである。この主観データを収集した際、デイルームで収集できたことは分かっているものの、その目的・行為については不明である。ここで重要なのは、この主観データの収集が何らかの目的を持った行為ではなかったことである。患者に対し特定の目的がなくとも注意深く観察していること、すなわち注意力が発揮されていることを表現している。

このモデリングにおいて、行為は時系列にそって表現される。これは、インタビューを受ける熟練看護師や、患者コミュニケーション教材としてナラティブを学ぶ看護師が、自らの行為を振り返ること、ナラティブを業務内に位置づけることを容易にすることを意図している。

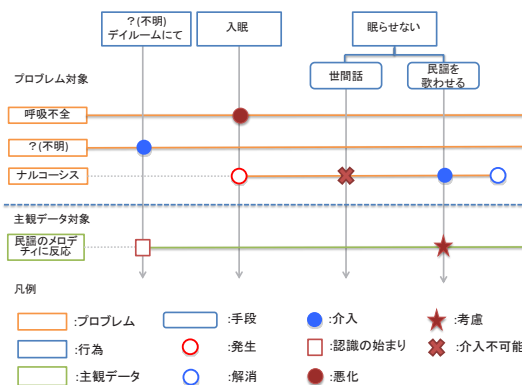


図1 目的・行為・手段の関係モデル

## 4. むすび

本稿では熟練看護師が語るナラティブについて看護観察知を理解するうえで必要な情報を収集するインタビュー手法について述べた。収集された情報を付加したナラティブにおいて、看護観察知がどのように存在するのかモデルにより表現する手法を示した。モデルは、プロブレム (目的), 行為, 手段を峻別することを意図したものであるが、観念的なものにとどまっている。ナラティブの分析をすすめることで、インタビュー知識とモデルの表記方法を洗練させたい。

### 参考文献

- (1) 日野原重明: POS 医療と医学教育の革新のための新しいシステム, 医学書院 (1973)
- (2) 村田京子: 医療の情報化が進行する中での患者情報のあり方について, 立命館人間科学紀要, 9, 37-57 (2005)
- (3) 井上智子監訳: ベナー看護ケアの臨床知—行動しつつ考えること, 医学書院 (2005)
- (4) 小川泰右, 池田満, 鈴木齋王, 荒木賢二: サービスの背後にある価値観の表出へのオントロロジー工学的アプローチ, 第26回人工知能学会全国大会, 2-R-4-5 (2011)